

いちき串木野市地域学校協働活動

学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～

No. 4-2(198)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝

令和4年5月19日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

タマネギ収穫

羽島小学校では、昨年の秋に植え付けたタマネギの収穫を3、4年生が行いました。4月28日(木)は、天候にも恵まれて羽島交流センター近くの畑で収穫の体験ができました。

今回収穫したマルチ栽培のタマネギは、現3年生が昨年11月に2年時の活動で植え付けたものです。1列に100本を植え付けられるようにしたマルチのシートを3列準備して、300本を植え付けたそうです。

シートの上に大きく育ったタマネギの玉が伸びている様子を見て、子どもたちは興味津々。さっそく袋を手にもって抜き取りにかかりました。目につく大きな玉から手が伸びて取っていましたが、「全部抜いてくださいね。」と言われて、少し落ち着いて小さなものまで取っていました。支援の方の指示でかくれた玉を見つけて抜いたり、茎がちぎれたものは、玉の下に指を入れて初めて体験する方法で抜く子もいました。



取り始めて…どれから取ろうか…

「今夜はカレーかな？弟も好きだから」と、話しながら作業している子供もいました。いろいろな体験をする中で子供は子供なりに考えて作業し、技術的な面も心の成長も進んでいる様子が見られました。

引き抜いた球を袋に詰めながら、ひとつの袋では入りきれなかったり、破けたりして次の袋をもらっている子や、持ちきれなくて二つ目の袋に分けて入れる子などいろいろな工夫をして持ち帰りの準備をしていました。

今回は、3、4年生(14人)で抜き取りの作業でしたから、早く済ませることができました。タマネギの植え付け・収穫と節目2回の作業でもそれぞれ難しさや、きついことがあることを支援者の枇榔秋信さんが話してくださいました。



端っこから…取っていきこう



茎の切れた球の根っこの下に指を入れて



みんなそろってありがとうございます

ニンニク収穫の支援

生冠中学校では、5月14日土曜授業の日に「ニンニクの収穫」作業を実施しました。生福地区まちづくり協議会の事業計画（黒ニンニクの里）のお手伝いを兼ねてニンニク収穫の仕事でした。地域の活動へ学校の児童生徒が参加・協力するという、まさに地域と学校が連携する活動です。

生徒の皆さんは、8時30分にウッドタウン公民館に46名全員が集まりました。畑の場所は、ウッドタウンから少し離れた「中井原（ナカイバル）」地区の畑で、10分近く歩いて現地に到着できました。

畑に到着後、まち協会長の木場與一郎さんから感謝の言葉があり、内田さんから作業の方法や説明をしてもらい、学年別に植えられた列に入って作業に取りかかりました。



抜き取りに早速取りかかり…

ニンニク畑に入って、作業を始めると、それまで感じなかったニンニク独特のにおいが漂ってきました。においにも負けず、作業が進められました。

初めの畑は、茎もきちんとした株だったので作業が思うように進みました。経験のある生徒がいたので、次の作業のために抜いた株をきれいに並べて女性部の方々が作業しやすいようにしていました。女性部の方々は、外側の皮をはぎ取り、茎と根をハサミできりとり、乾燥の作業ができるようにきれいに処理されていました。初めに入った畑での一通りの作業が終わって、給水と休憩に入りました。

休憩が終わって次の畑の作業になりましたが、こちらは、草は生えていなくて作業がしやすそうでしたが、茎を引っ張ると簡単に切れたり、滑って抜き取るのに苦労している様子が見えたので一休み。作業方法をひと工夫してマルチのビニールを剥ぎ、鍬やスコップを準備して作業が再開されました。鍬やスコップの使い方「株の下に刃を入れるように」とか「鍬の刃の真ん中に玉がいくように」などと要領を教えてくださいました。道具がそろったおかげで作業が速く進みました。生徒の皆さんも目に見えて作業が進むのでより一層気合が入り、思ったより早く作業が終わることができて、まち協の皆さんも大変喜んでくださいました。生徒の代表も、「簡単そうに見える作業も大変なことが分かりました。」という感想を発表してくれました。



朝早く現地集合でした～



鍬の使い方はねえ…こうすると…



作業終了で…記念撮影でした

連絡先＝市来庁舎3階 市教育委員会社会教育課

(Tel 21-5128) (FAX 36-5044) / ご意見・質問・相談もどうぞ

統括コーディネーター (串木野地域 濱田俊浩) (市来・生福地域 有元 操)

